

滋賀県衛生科学センター整備事業

事業者選定概要

令和7年10月

滋賀県健康医療福祉部建設工事等総合評価審査委員会

1 事業者選定の方法

本事業は、設計および施工に関する専門的な知識や経験を十分に発揮した成果を求めつつ、工期短縮や品質の向上、コスト削減を図ることを目的とし、発注方式を「設計施工一括発注方式」とした。また、落札者の決定に当たっては、設計・建設能力、事業計画能力および県の財政支出額等を総合的に評価する為、総合評価一般競争入札を行うこととした。

なお、この入札に係る調達、地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（平成7年政令第372号）および滋賀県特定調達契約の建設工事等に係る競争入札参加者の資格審査等に関する要綱（平成8年滋賀県告示第171号）の適用を受けるものである。

2 審査委員会の設置

県は、落札者選定にあたり学識経験者等で構成される「滋賀県健康医療福祉部建設工事等総合評価審査委員会」（以下「審査委員会」という。）を設置した。

区分	氏名（敬称略）	所属機関（団体）名
委員長	山田 忠利	滋賀県健康医療福祉部長
副委員長	小嶋 栄子	滋賀県健康医療福祉部次長
委員	迫立 茂	滋賀県健康医療福祉部健康危機管理課長
委員	西川 忠	滋賀県土木交通部技術管理課長
委員	宗像 幸夫	滋賀県土木交通部建築課長
委員	石井 利江子	滋賀大学経済学部 教授
委員	小森 敏明	長浜バイオ大学 フロンティアバイオサイエンス学科 教授
委員	中村 由紀子	大津市保健所長
委員	西田 誠	国土交通省近畿地方整備局 京都営繕事務所長
委員	原田 亜紀子	滋賀医科大学 NCD疫学研究センター 准教授

3 審査委員会の開催経過

審査委員会の開催経過は、以下のとおりである。

日程	委員会	主な議題
令和7年5月15日	第1回審査委員会	実施方針について 総合評価方式を適用することの適否について 技術提案の評価方法について
令和7年10月16日	第2回審査委員会	技術提案について (事業者プレゼンテーション・ヒアリング) 技術提案の評価等について 最優秀提案の選定について

4 審査の方法

審査は、資格審査、基礎審査および提案審査の三段階に分けて実施した。審査委員会は、審査書類の内容に対する「提案審査」を実施し、県が実施した「実績審査」および「入札価格審査」をそれぞれ点数化した上で、これらを合算した総合評価点が最も高い入札参加者の提案を最優秀提案として選定した。

5 審査の結果

(1) 資格審査

以下の2グループから入札参加表明書（入札参加資格確認申請書を含む）の提出があり、県は、いずれのグループも入札公告に記載の入札参加資格要件を満たしていることを確認した。

入札参加資格確認者（入札参加資格確認申請時の受付順）

入札参加資格確認者	代表企業名
株式会社桑原組グループ	株式会社桑原組
西村建設株式会社グループ	西村建設株式会社

(2) 基礎審査

入札参加資格を有する2グループから入札に関する提案書類の提出があり、県は、いずれのグループとも入札参加者に求めた入札提案に関する提案書類がすべて揃っていることおよび提案内容が要求水準を満たしていることを確認した。

入札参加者（入札提出書類の受付順）

入札参加者	代表企業名
Tグループ（株式会社桑原組グループ）	株式会社桑原組
Zグループ（西村建設株式会社グループ）	西村建設株式会社

（３） 提案審査

ア 実績審査

県は、提案審査の対象となった２グループについて、落札者決定基準に基づき、入札参加資格確認時に提出のあった実績調書等により以下の評価項目毎に得点化した。

区分	項目	評価対象	評価基準	配点	満点			
企業実績	施工実績	平成22年度以降に竣工引渡し が完成した新築、増築又は改築 工事実績	国または地方公共団体が発注する工事で研究所、研究施設、理系大学又は病院の施工実績で延べ面積3,000㎡以上【実績A】	2.0	2.0			
			研究所、研究施設、理系大学又は病院の施工実績で延べ面積3,000㎡以上【実績B】	1.0				
			国または地方公共団体等が発注する工事で「令和6年国土交通省告示第8号別添二」による建築物の類型二から十二に該当する建築物で延べ面積3,000㎡以上（実績Aを除く）【実績C】	1.0				
	設計実績	平成22年度以降に設計が完成した新築、増築又は改築工事設計実績	【実績A】	2.0	2.0			
			【実績B】	1.0				
			【実績C】	1.0				
配置予定技術者（施工）	監理技術者の実績	平成22年度以降に竣工引渡し が完成した新築、増築又は改築 工事実績	【実績A】	2.0	2.0			
			【実績B】	1.0				
			【実績C】	1.0				
配置予定技術者（設計）	管理技術者	平成22年度以降に設計が完成した新築、増築又は改築工事設計実績	【実績A】	2.0	2.0			
			【実績B】	1.0				
			【実績C】	1.0				
	建築（総合）担当の主任技術者		国または地方公共団体等が発注する工事で「令和6年国土交通省告示第8号別添二」による建築物の類型二から十二に該当する建築物、又は研究所、研究施設、理系大学又は病院用途の建築物で、延べ面積2,000㎡以上の設計実績【実績 参加要件】	0.5	0.5			
				【実績 参加要件】		0.5	0.5	
						【実績 参加要件】		0.5
						【実績 参加要件】		0.5
構造担当の主任技術者		【実績 参加要件】	0.5	0.5				
電気設備担当の主任技術者		【実績 参加要件】	0.5					
機械設備担当の主任技術者		【実績 参加要件】	0.5	0.5				
合計					10.0			

イ 入札価格の確認

県は、入札に関する提案書類の提出があった２グループから提出された入札書に記載された入札価格が予定価格を超えていないことを確認した。

ウ 技術審査

審査委員会は、落札者決定基準に基づき、入札参加グループ名を伏せた「Tグループ」、「Zグループ」として、提案審査を行った。配点については70点。

技術提案点は、落札者決定基準に示す評価項目（※項目については別紙のとおり）毎に、以下の表のとおり５段階で評価した。

評価	内容	評価点
A	秀でて優れている	各項目の配点×1.00
B	優れている	各項目の配点×0.75
C	いくつかの優れている点を確認	各項目の配点×0.50
D	わずかに優れている点を確認	各項目の配点×0.25
E	要求水準を満たす程度である	各項目の配点×0.00

エ 価格点

価格点については、入札金額を落札者決定基準に基づき、次の方法で得点化した。

入札価格 ≤ 予定価格の 91% の場合	20 点
予定価格の 91% < 入札価格 ≤ 予定価格の 100% の場合	【価格点：0 点】と【価格点：20 点】を通る直線式により算出される以下の y の値を価格点とする。 価格点算定式 $y = 20 \times (1 - x / 0.09)$ x：(入札価格/予定価格 - 0.91) 算出の際は、小数点第 3 位を四捨五入し、小数点第 2 位までを求める。

入札価格は以下のとおりである。

	T グループ	Z グループ
入札価格（税抜）	3,050,000,000 円	3,090,000,000 円

オ 総合評価点

総合評価点については、実績点、技術提案点および価格点の合計により算出した。

	T グループ	Z グループ
実績点（10 点）	8.00 点	8.00 点
技術提案点（70 点）	30.93 点	37.96 点
価格点（20 点）	5.76 点	2.92 点
総合評価点（100 点）	44.69 点	48.88 点

カ 最優秀提案の選定

審査委員会は、総合評価点が 1 位となった Z グループを最優秀提案者として選定した。

6 選定理由の概要

技術提案の評価にあたり、審査委員会において特に意見交換が行われた点としては以下のとおりであった。

- ・ 研究施設に関する実績
- ・ 全体工程管理
- ・ 基本計画のコンセプト
- ・ 設計業務の実現性
- ・ 採用した構造形式（災害、振動への対策）
- ・ 県内企業・県内産品に関する提案
- ・ 県とのヒアリングによる調整

いずれのグループの提案内容についても、自らのノウハウを活かして熟慮の上、提案されていることが伝わり、新しい滋賀県衛生科学センターに相応しい非常に力の入った提案であった。主に評価された点としては、以下のとおりである。

【Tグループの提案に対する評価】

設計企業にも県内企業を加えており、地域精通度、プロジェクト全体の理解度や安全管理についてもきめ細やかな提案がされていた

全体工程管理についても、デザインビルドということで設計段階でも施工検討等を前倒しして実施することに加え、例えば資機材の調達といった話をコストだけではなく工程管理の中に盛り込み、施工についても設計が終わってからやるのではなく、試掘や撤去工事等、できるものは先にやるという具体的にプロジェクトを実施する上で想定される内容を提案されていた。

県内の資材の調達に留まらない、ベンチャー企業との連携等の提案もいただいた。

【Zグループの提案に対する評価】

設計業務は適格性と実現性が重要と考え、実施方針の実態体制の工程管理の中で、遅れることに対するリスクヘッジ、業務が遅れてきたときにどうするかまで触れられていた。

研究所設計の経験があることもあり、特に設備の検討過程や説明において具体的な提案があり説得力がある。

施設整備について、研究所の建築に関して、こういった特徴を踏まえるとよいのかというところがわかりやすく説明があり、レイアウト変更や設備等、細かなところもしっかりとまとめていた。

また、設計の中で高さを抑えなければいけないこと、研究施設は階高が高くなるという傾向を設計の中でなんとかしようという意思が見られた。

設計初期の計画を重視されている印象があり、設計においても、コストにおいても重要だということが押さえられていた。

体制についてもしっかりと説明されており、ヒアリングをしっかりと行った上で業務を進めていくことがうかがえた。

審査委員会は、落札者決定基準に基づき、厳正かつ公正に審査および評価を行い、研究所設計の経験を活かした施設整備や設備の検討について具体的な提案があったこと、工程管理やコスト管理も意識した提案であったこと等を評価し、Zグループを最優秀提案として選定した。

技術提案点詳細

No	提案項目		配点	Tグループ	Zグループ
1	業務の実施方針	(1) 実施方針および実施体制 (2) 全体工程管理 (3) コスト管理	18.00 点	8.40 点	9.45 点
2	施設整備に関する事項	(1) 意匠・外観計画 (2) 設備計画 (3) 構造・BCP	18.00 点	7.50 点	11.85 点
3	設計業務に関する提案		9.00 点	3.93 点	4.85 点
4	施工業務・監理業務に関する提案		12.00 点	4.65 点	5.55 点
5	その他の提案	(1) 地域経済への貢献に付与 (2) 維持管理 (3) 別途工事への配慮	13.00 点	6.45 点	6.26 点
合計			70.00 点	30.93 点	37.96 点